

心に残る文化財子ども塾 出雲養護学校みらい分教室

1. 活動の概要

7月7日（金）に出雲養護学校みらい分教室にて『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。内容は、『協力して「奈良の大仏」実物大パネルを完成させよう。』です。

まず、大仏がつくられた奈良時代について学習しました。出雲養護学校みらい分教室のある場所は、奈良時代には「神門郡」に位置していました。神門郡には「神門水海」（現在の神西湖）が広がっていたことや「菌松山」と呼ばれた砂丘が広がっていたことを説明しました。次に奈良時代の須恵器や土師器に触れてみました。

休憩をはさみ、まず奈良の大仏のDVDを鑑賞しました。児童生徒よりも教員の方がより強い関心をもって見ていました。いよいよ大仏パネルの作成です。事前に班分けをして、どの部分を担当するかを決めていたので、順調に進みました。最後に、筆で大仏に目を入れる儀式を行い、子ども塾を終了しました。

2. 子ども塾を終えて

1) 子供たちから

- ・大仏がでかくて、作るのにも時間がかかったけど、大きいのがつくれて楽しかった。
- ・大仏は思ったより大きくてびっくりしました。
- ・目を描くのが一番心に残った。
- ・大仏の頭が面白かった。
- ・大仏を作るのに12年間かけて作るなんてすごいと思いました。

2) 先生から

実物大の大仏パネルを協力して完成させ、全員で達成感を味わうことができました。また、大仏ができた当時の出雲市の様子を学び、地域の地理や歴史・文化について興味を持つことができました。

3) 埋文センターから

土器に触れたことがあるという人が思いのほか多いことが印象的でした。暑い中、班分けに従ってお互いに指示や助言をしながら、規律よくパネル製作を行っていたことが心に残りました。また、出来上がった大仏の大きさに感銘を受けている様子も印象的でした、今回の体験を機会に、さらに歴史に関心を持ち続けてほしいと思います。